



桂の湯殿

2006.5-2007.5

所在地 岐阜県美濃市曾代88
岐阜県立森林文化アカデミー地内
建築面積 23.50㎡(7.12坪)
設計・施工 岐阜県立森林文化アカデミー
木造建築スタジオ
葉賀 伸子(六期生)
片岡 伸輔(六期生)
坂本 美智子(六期生)
竹腰 将一(六期生)
鳥羽 真(六期生)
山村 いづみ(六期生)
吉長 浩明(六期生)
三澤 文子(教授)
小原 勝彦(講師)
辻 充孝(講師)
指導 松森建設
総工事日数 133日
参加総人数 102人(1031人工)
総工事費 243万円
ボイラー設置 99万円

岐阜県立森林文化アカデミー 木造建築スタジオ
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88TEL 0575・35・
3889/FAX 0575・35・3890Mail
studio@forest.ac.jp/URL www.forest.ac.jp



2006.07.21 樹木移植



2006.07.28 配筋工事



2006.08.07 製材



2006.08.25 木材刻み



2006.09.20 建て方



2006.11.15 左官工事



2007.05.09 タイル貼り

森のシャワー室

学内では実習が多く、汗をかいたり汚れたりすることが頻繁にある。実習の後、汗や汚れを簡単に洗い流し、その後の講義やゼミにリフレッシュした気持ちで参加したいという希望と、アカデミーで実施される地域のこどもたち対象のキャンプなどでコテージに完備された浴室を利用するだけでなく、森の中の「シャワー室」を利用することで環境教育をさらに有意義なものにしたいという目的から森のシャワー室を建設することになった。

学内シャワールーム建築にあたり、既存の森のコテージ内にある浴室との差別化が必要である。

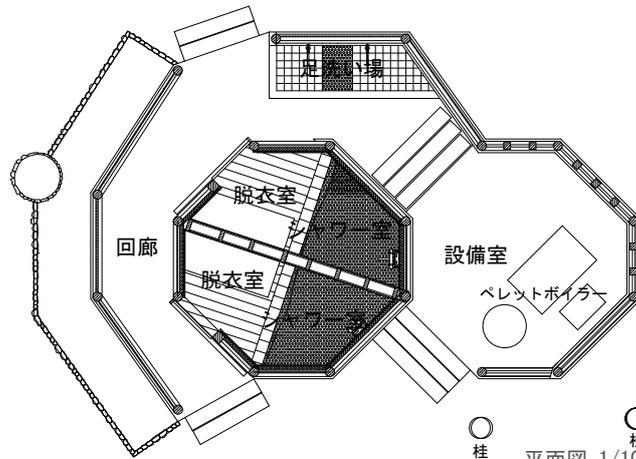
学内の主となる建物の中心部という立地の良さだけでなく、給湯の熱源をペレットボイラーにし、現在注目されている木質エネルギーを日常の生活から身近に感じられる学習の場とする。

建築予定の敷地には桂の木がある。この桂の木をモチーフにして、建築を計画した。センターゾーンのちょうど真ん中に位置するので、既存の建築と馴染みつつも、軽やかにそこに存在するシャワールームを目指した。

『桂の湯殿』という名前は、湯殿という響きの中から、また、熱源を介して水がお湯になっていくプロセスを目で見ることから、蛇口をひねるとお湯が出る日常をふと見直し、当然と思っていた出来事に感謝の気持ちを持つ事、そして資源を大切にすることを改めて認識できる場となって欲しいという思いを込めて名付けた。



桂の湯殿 竣工式



桂 洗面場
桂 平面図 1/100

八角形を2つ並べる。1つはシャワールーム、もう一つは設備ルームとする。

入り口周囲に格子を付け、出入りが直接見えないように配慮した。出入りしている姿を直接見えないようにする為と、誰も利用していない時に、出入り口を開放し室内を乾燥させる為である。

屋根の形状は桂の葉をモチーフにした。梁は葉脈状に組み、屋根の勾配は緩やかに南面に向かって下がっている。

葉に落ちた雨が葉を伝って流れ落ちるように、屋根に降った雨が谷の部分に集まって緩やかに流れ落ちる様子を表現した。



シャワー室内部



桂の湯殿 俯瞰写真 (情報処理室より見る)